

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第6巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

<https://doi.org/10.15017/17972>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 6, 2010-03. TEMDEC事務局
バージョン：
権利関係：

1. はじめに

今年度もまた大きな飛躍の年となりました。その第一に挙げられるのは、新しい国々への展開です。5月にはアフリカで初めてとなるエジプトのカイロ大学へ、7月には南アメリカ初となるブラジルのサンパウロ大学へ、それぞれ接続しました。これで南極大陸を除き、すべての大陸へ活動が広がったこととなります。その他6月にはノルウェー（聖オラヴス大学病院）へ接続してヨーロッパ7番目の国となりましたし、10月にはメキシコ（国立メキシコ大学）へも初めて接続ができました。国内へ目を向ければ、北海道大学、癌研有明病院、神戸大学、広島大学など次々に参加しています。10月に行われた癌研有明病院からノルウェーへのライブ手術では、ノルウェーの Marvik 教授から「今まで見たライブ手術の中で最も綺麗な画像だった」というコメントをいただき、非常に印象的でした。

第二の成果は、中国への大きな展開です。中国教育研究ネットワーク（CERNET）チームとの強い協力関係により、3都市の主要施設へネットワークが確立しました。医学系大学では常に第1位に挙げられる北京協和医科大学病院、上海に新設された内視鏡トレーニングセンター（CTEC）、また西安にある第4軍医大学付属西京病院です。北京ではまたオリンピック会場すぐ近くの北京国際会議場で9月に国際外科消化器癌学会（IASGO）世界大会が開かれ、計10施設を結んだ4つのライブセッションで大成功を収めました。また12月に香港で開催された24回目となる歴史ある内視鏡ワークショップでは西京病院からもライブデモンストレーションを行い、11月に北京で行われた第13回超音波内視鏡研究会でも日本や韓国を接続して会を盛り上げました。さらに本年度から日中医学交流事業も開始され、早期胃癌の診断に関する日中間でのテレカンファレンスも始まっています。

三番目には、大きな学会や研究会とのコラボレーションがあります。4月に福岡で行われた参加者13000人の日本外科学会では3日間に渡り5つのテレカンファレンスを行い、また5月のローマライブへは東京・名古屋会場と共に新しい手術の遠隔講演を実施しました。11月の関東LADG（腹腔鏡下胃切除術）研究会では初めて北海道大学と九州大学を接続し、札幌・東京・福岡にソウルを加えた4会場の間で議論を交わしました。1月にはタイ外科学会が主催する卒後教育セミナーで、タイではまだ珍しい腹腔鏡下胃切除術のライブ手術を、ネットワークが初めて接続された厚生省直轄の Rajavithi 病院へ配信し、教育的にも非常に価値の高い内容にすることができました。

設立後1年を過ぎたアジア遠隔医療開発センターも、狭いながらやっと部屋ができつつあります。来年度は新しい機器の導入やスタッフの増員も予定され、その活動の充実がさらに期待されています。皆様のご理解とご協力、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

平成22年3月

九州大学病院 アジア遠隔医療開発センター
清水周次